

日本女子大学家政学部住居学科学生有志による雑司ヶ谷の魅力発信

わいわい
ぞうしがや

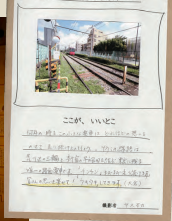
昔ながらのまち並み等懐かしい雰囲気が残る豊島区雑司ヶ谷は、密集市街地のために防災面での不安要素を抱えており、今後まち並みが変化していくことが予想されます。“わいわいぞうしがや”は「将来のまち並みが変わっていく中でも、今ある雑司ヶ谷の良さを継承していくために、住民の皆さんと何かできないだろうか」と考え立ち上がった学生有志によって始められました。豊島区からの助成期間を終了した今も地域のひととの密接な付き合いは継続しています。

2012年度

初年度には住民の皆さんとまち歩きをしたり、地域の魅力を共有するための「雑司ヶ谷いいとこ写真展」を開催しました。

住民の皆さんが思う雑司ヶ谷のいいところ

雑司ヶ谷いいとこ写真展



集まった作品や写真展での活動を通して見えてきた、雑司ヶ谷の「いいところ」をまとめた「いいところマップ」を作成

2013年度

雑司ヶ谷で古くからまちの人から親しまれている御会式の「地元講」に着目し、『雑司ヶ谷展示会』を開催しました。たくさんの方に後押ししていただき展示会の内容を詳しく紹介した「御会式知恵袋」という御会式ガイドブックを発行しました。



講の紹介

雑司ヶ谷21講社の講元さん、副講元さん等にインタビューさせて頂いた内容を紹介しました



御会式・御会式連合会の紹介
各講社の町内周りルートの紹介

2014年度

雑司ヶ谷地域の商店街を舞台に、「新しく雑司ヶ谷に住み始めた人たちでも利用したり交流しやすい場所づくり」をテーマに、各商店にインタビューを行い、お店の個性やメッセージ、店主さんの心意気を載せたポスターを作成しました。



各商店のポスターを一冊にまとめたよりみちずかんが刊行中です。



今日の夕飯どうしよう、お肉の相談なんなりと、肉の大久保

ぞうしがやガヤたんけん

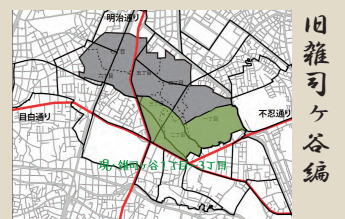
住居学科の中から学年を超えて集まったメンバーにより、『住居学を学ぶ』『女子大生』ならではの目線で雑司ヶ谷を発見し、“ぼんじょ生”やまちの人に向けて発信することを目的に活動しています。2012年度5人で始めたこの活動は2014年度には旧雑司ヶ谷へと範囲を広げました。今年度はかつての雑司ヶ谷村全域を扱っています。この活動によって学年を超えた学生同士の交流や地域の方々とのつながりが生まれています。



ユネスコ日本協会「プロジェクト」登録の現地調査会への協力の模様



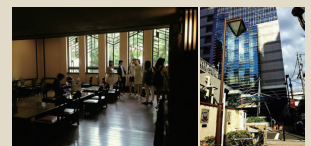
- 見どころ
- 3丁目版 法明寺鬼子母神堂特集
 - 2丁目版 住居学科2年生設計課題紹介
 - 1丁目版 弦巻通り商店街のお店紹介



旧雑司ヶ谷編

現在1~3丁目までの雑司ヶ谷という地名はかつて、7丁目まで存在していました。

- 見どころ
- 旧4丁目版 インタビュー記事・豊島区新庁舎特集
 - 旧5丁目版 旧雑司ヶ谷の面影を残すお店特集
 - 旧6丁目版 自由学園明日館・ギャラリー回遊美術館特集
 - 旧7丁目版 地域施設・住居学科2年生の課題紹介



ぞうしがやガヤたんけん名物コーナー

すてき雑司ヶ谷



設計課題紹介



参加メンバー

ぞうしがやガヤたんけん

雑司ヶ谷村全域版 只今作成中

現在の目3~4丁目・下落合3丁目にあたるかつての雑司ヶ谷村の範囲を扱います。徳川女子寮・目白庭園・設計事務所ギャラリーなど盛り沢山の内容です。

研究紹介

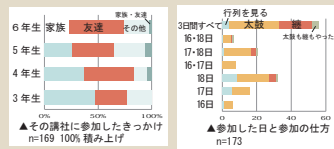
葉袋研究室では、継続的に生活空間として魅力高い雑司ヶ谷を様々な角度から、その特徴について研究しています。これまで路地の植栽・御会式・地下鉄利用者・集合住宅入居者のコミュニティ・商店街店舗・領域の変遷などを調査してきました。

雑司ヶ谷の御会式を通した子どもの多世代交流について (2015)

雑司ヶ谷の御会式が子どもの行動に与える影響を調査しました。

御会式とは、本来祖師の命日に行われる法会のことです。雑司ヶ谷では地域に根差したお祭りとして10月16・17・18日を通して行われ、参加する集団のことを講社といいます。

子どもたちにとっては、さまざまな講社に参加することで、いろいろな世代の人と交流する機会となっています。遊び場が変化し、遊びに伴う地域交流が減少した今、御会式は、子どもの交流・行動を広げる貴重な機会であるといえます。

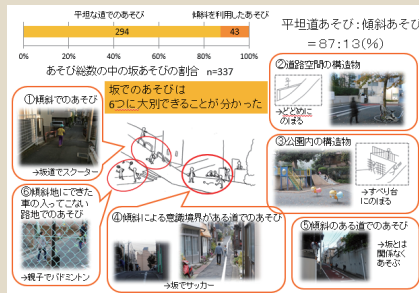


【小学生へのアンケート結果】

坂のある住宅地でのこどもの外遊びに関する研究—雑司ヶ谷を事例として— (2015)

こどもの豊かな成長につながる道路空間を有したまちの形成への指針を得るため、現在のこどもたちがまちのどのような場所、地形で遊んでいるかを調査しました。

木造密集地であり、車の往来が少なく、地域の繋がりが比較的に強い雑司ヶ谷はもの遊び環境として優れているといえます。公園だけでなく、道路空間でも自由に遊びを展開していることが分かりました。



地域の交流拠点としての店舗とその空間構成—東京都豊島区雑司ヶ谷の三つの商店街を対象として— (2014)

本研究では、雑司ヶ谷地域内にある三つの商店街の店舗を対象に、その空間構成と交流実態との関連を調査しました。

調査により、店主による声掛けは50件中41件で行われており、ファサードが開放しているopen型店舗(図1)における声掛けが最も多いことがわかりました。一方、close型店舗では声掛けのない店舗の場合や水やりの際に声掛けをしている店舗もありました。(図2) 続いて、お客さんとのような話をするか、店主による自由回答を得たところ、世間話をする店舗が40件と最多でしたが、地域の情報交換をする店舗も11件あり、これ地域住民の利用が多いためと考えられます。(図3)

地域内のお客さんが多い店舗で、客同士交流がある店舗は50件中6件ありました。これらに共通する条件は、交流空間が道路から見えないこと、店内の雰囲気を表すファサードやあふれ出しがあることでした。客同士が声を掛け合い、交流が生まれます。(図4)

調査の結果から、店舗空間構成に加え、店主の習慣などが店舗利用や交流発生に影響を与えていることがわかりました。また、客同士の交流空間は道路からは見えないところで行われており、ファサードやあふれ出しから判断し、店舗を利用するのが良いと考えられます。

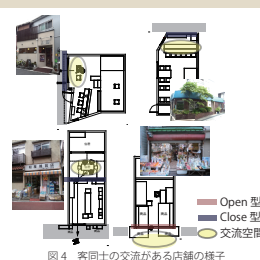
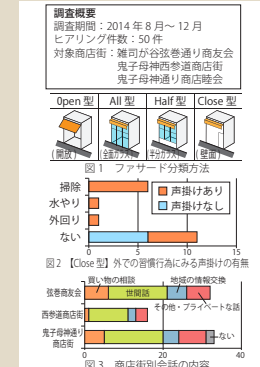
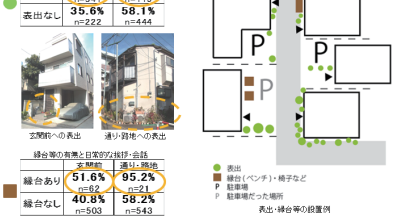


図4 客同士の交流がある店舗の様子

雑司ヶ谷研究5—近隣交流を促す境界領域— (2014)

木造密集地である雑司ヶ谷の境界領域(注1)の設えと近隣交流の関係性を調査しました。袋小路や入り組んだ路地は防炎的に懸念されますが、そこで生まれる住民同士のつながり

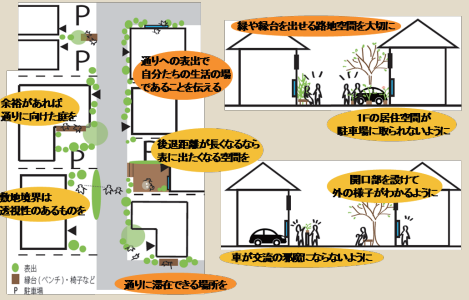
は、災害時における共助の面や、防炎的にも有効であると考えられます。雑司ヶ谷の住民の多くは、境界領域において緑を育てたり、食事や趣味を楽しんだり、生活の様々な場面で境界領域を有効に活用しており、日常的に近隣所と挨拶や会話を交わしていることが確認できました。同時に、駐車場の位置によっては日常的な近隣との交流が妨げられていることも確認できました。



注1「境界領域」とは、建物と道路との間ある空間を指します。

〈提案〉

緑や縁台を出したり、1Fの居住空間を車に取られないようにし、通りに面した開口部を設けることで、生活空間の一部になるような境界領域が生まれ、そこに住む人々がお互いの生活の気配を感じられるようになります。



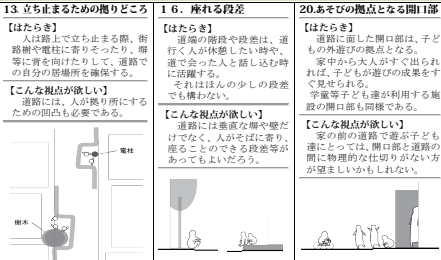
住民の滞留行為を支える道路及び境界領域に関する研究 (2014)

既成市街地において道路整備を行う際には、住民の普段の生活における道路利用状況を明らかにし、整備後も従来の道路の使い方(暮らし方)を継続できるようにすべきです。

本研究では雑司ヶ谷を対象に、特に立ち話や子どもの遊び等の道路における滞留行為に着目して観察調査を行うことで、道路を生活の場として捉え直すための基礎的研究としました。道路をコミュニケーションの場と捉えることで災害への備えにも繋がると考えています。観察調査の結果、立ち話や子どもの遊び、水仕事や修理作業など、道路における多様な滞留行為が見られました。これら滞留行為は、建物の出入口や、立ち止まる際の抛り所になるような沿道の凹凸、住民自らが設置した緑やベンチ等の設えに関連して発生していました。

また、沿道空間(敷地)と一体的に利用できる道路では滞留行為が多く見られ、道路に十分な滞留空間を確保するのが難しい地域では沿道建物の境界領域(注1)の作りを工夫し滞留の場を確保できる可能性が見えてきました。

今回の調査結果をもとに、道路を滞留の場と捉えた場合に考えられる雑司ヶ谷の「道路デザインコード」(注2)を作成しました。以下にその例を示します。



注1「境界領域」とは、建物と道路との間ある空間を指します。

注2 この「道路デザインコード」は、本来地域住民の皆さんと共に考えるべきものであり、また今回得られた調査結果のみをもとに作成していますので、これが「道路デザインコード」の全てではありません。

主な研究：・雑司ヶ谷研究その1—道路の構成と住宅更新—

- ・雑司ヶ谷研究その2—御会式開催支援における人の繋がり—
- ・雑司ヶ谷研究その3—「緑のこみちの会」の活動と参加住民の意識—
- ・雑司ヶ谷研究その4—雑司ヶ谷の領域の変遷に関する研究—
- ・雑司ヶ谷研究その5—近隣交流を促す境界領域—
- ・雑司ヶ谷研究その6—集合住宅居住者の近隣交流実態—

- ・ミニ開発住宅における開口部のあり方
- ・古地図を用いた雑司ヶ谷領域の変遷に関する研究—境界に影響する要素についての考察—
- ・坂のある住宅地でのこどもの外遊びに関する研究
- ・雑司ヶ谷の御会式を通した子どもの多世代交流について
- ・御会式参加組織の運営実態からみる住民ネットワークの考察